Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 19第22号
2019年（令和元年） 9月13日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

8/29~9/4のNYMEX・WTIは、53.94～56.71ドルの範囲で推移した。

9月5日は、1日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で米国原油在庫が前週比480万バレル減と市場予想（同250万バレル減）を大きく上回る3週連続の取り崩し、ガソリン・中間留分も減少したことを好感して、わずかに続伸した。10月限終値は前日比0.04ドル高の56.30ドル。

週末6日は、前日の米中閣僚級協議の10月上旬開催発表、ドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感から、3日続伸した。ベーカーヒューズ社発表の米国稼動石油掘削機は、738基で前週比4基減、3週連続の減少。10月限終値は前日比0.22ドル高の56.52ドル。

週明け9日は、7日解任されたサウジのファリハ・エネルギー相の後任アブドルアジズビンサルマン殿下（前エネルギー担当相、国王の第4子、ムハンマド皇太子の異母兄）が、12日からのアブダビでの合同閣僚監視委員会（JMMC）を前に、同国の現行石油政策と長期的なOPECプラスの関係維持の方針を確認したことを好感し、4営業日続伸した。10月限終値は前週末比1.33ドル高の57.85ドル。

10日は、トランプ大統領による強硬派のボルトン安全保障担当補佐官解任の発表を受けた、米・イラン関係の緊張緩和の期待やEIAの短期見通し（STEO）の本年・来年の価格予測・今年の需要の伸びの下方修正で、5営業日ぶりに反落した。10月限の終値は前日比0.45ドル安の57.40ドル。

11日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比690万バレル減と大幅な取り崩しの報告があったが、対イラン制裁の緩和観測、OPEC月報の2019年・20年の需要の下方修正で続落した。10月限の終値は前日比1.65ドル安の55.75ドル。

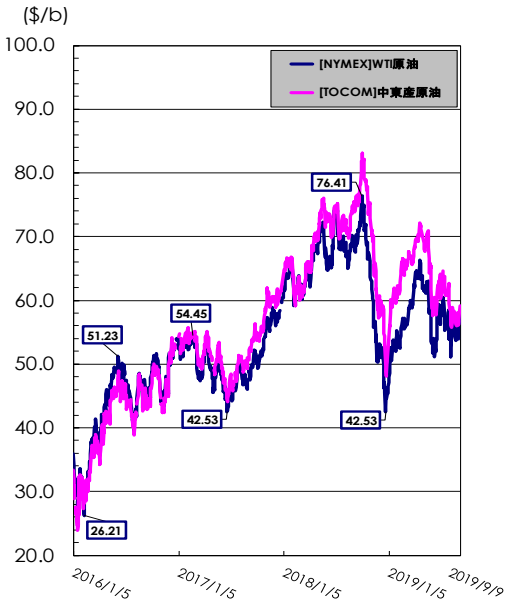
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11月渡し）は8月29日～9月4日の間57.00～59.00ドルの範囲で推移した。9月5日58.50ドル、6日59.30ドル、9日60.40ドル、10日61.10ドル、11日60.80ドルで推移した。

為替は8月29日～9月4日の間105.93～106.46円の範囲で推移した。9月5日106.42円、6日107.07円、9日106.95円、10日107.45円、11日107.66円で推移した。

財務省が9月6日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、45,946円/klで、前旬比413円高、ドル建て67.83ドルで前旬比0.86ドル高。為替レートは1ドル/107.69円だった。

そのような中で、9月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同3円の値下がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油は6週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりだった。この週（9月第2週）の原油コストはほぼ横ばいで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

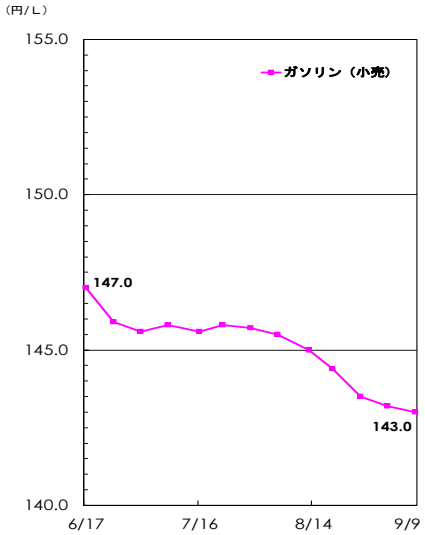
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	9/1 ～ 9/7	3,456	▼ -212	▲ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	88.2	▼ -5.5	▲ －
需給	原油在庫量	（千kl）	9/7	13,122	▲ 301	▲ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	9/9	59.20	▲ 2.50	▼ -15.2
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	9/9	57.85	▲ 3.91	▼ -9.7
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	8月中旬	67.83	▲ 0.86	▼ -9.13
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	45,946	▲ 413	▼ -7,944
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	107.69	▲ 0.40	▲ 3.64
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	9/9	107.95	▼ -0.81	▲ 3.98



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/1 ～ 9/7	1,010	▲ 66	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	884	▲ 34	▼ –
	輸出		〃	19	▼ -20	▼ –
	在庫		9/7	1,658	▲ 107	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/3 ～ 9/9	56.0	▼ -0.5	▼ -13.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/3 ～ 9/9	51.7	▲ 0.4	▼ -15.3
		(TOCOM/中部)	9/9	54.0	▲ 0.5	▼ -12.6
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/9	143.0	▼ -0.2	▼ -10.1

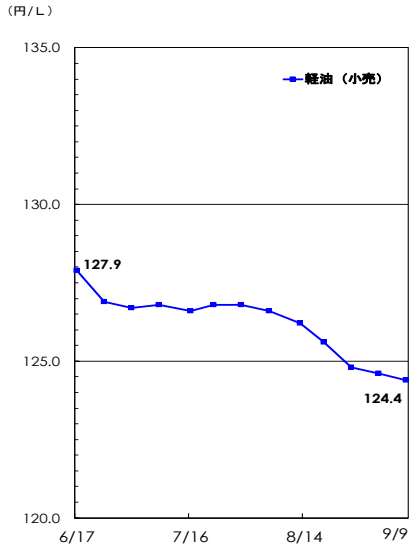
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

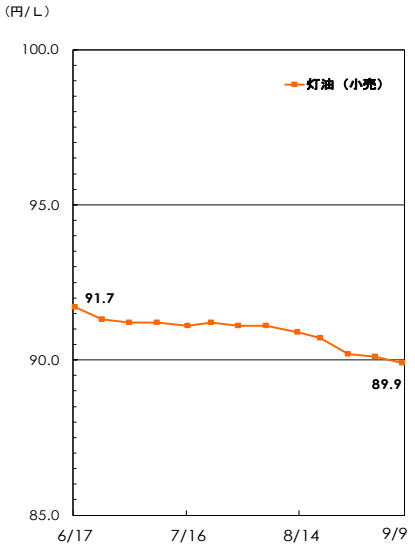
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/1 ～ 9/7	942	▲ 140	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	609	▼ -12	▼ –
	輸出		〃	313	▲ 107	▲ –
	在庫		9/7	1,699	▲ 19	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/3 ～ 9/9	58.3	▼ -0.2	▼ -12.1
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/3 ～ 9/9	59.3	▼ -0.3	▼ -9.7
		(TOCOM/中部)	9/9	–	–	–
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/9	124.4	▼ -0.2	▼ -7.3

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		9/1 ～ 9/7	142	▼ -55	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	64	▼ -2	▼ –
	輸出		〃	48	▲ 9	▲ –
	在庫		9/7	2,381	▲ 31	▲ –
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	9/3 ～ 9/9	58.2	➡ 0.0	▼ -11.9
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/3 ～ 9/9	56.0	▲ 0.5	▼ -13.9
		(TOCOM/中部)	9/9	56.0	➡ 0.0	▼ -14.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	9/9	89.9	▼ -0.2	▼ -3.7



■ 関連情報

1　海外/原油

9月11日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比690万バレル減と市場予想（同270万バレル）を上回る取り崩しの報告があったものの、昨日のボルトン補佐官解任に続いて対イラン制裁の緩和観測が流れ、OPEC月報が2019年・20年の需要の伸びを下方修正するなど、下げ要因が強く、続落した。10月限の終値は前日比1.65ドル安の55.75ドル、11月限の終値は前日比1.62ドル安の55.67ドル。

EIAによると、9月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値下がりの1ガロン2.550ドル（72.6円/㍑）、ディーゼルは同0.5セント値下がりの2.971ドル（84.6円/㍑）となった。ガソリンは8週連続の値下がり、ディーゼルは9週連続の値下がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2019年9月1日～9月7日に休止したトッパー能力は18.0万バレル/日で、前週に対して8.0万バレル/日増加した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は345.6万klと、前週に比べ21.2万kl減少。前年に対しては3.5万klの増加。トッパー稼働率は88.2%と前週に対して5.5ポイントの減少、前年に対しては0.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。
ガソリン/7.0%増、ジェット/8.9%減、灯油/28.0%減、軽油/17.4%増、A重油/36.8%増、C重油/5.7%減。今週のC重油の輸入は3.1万kl（前週比3.1万kl増）。軽油の輸出は31.3万kl（前週比10.7万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比では灯油、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェット、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は88.4万 kl（対前週4.1%増）と3週振りで増加となり、3週連続で100万klを下回った。ジェット14.0万kl（対前週54.4%増）、灯油6.4万kl（対前週4.2%減）、軽油60.9万kl（対前週1.9%減）、A重油21.3万kl（対前週23.7%増）、C重油14.9万kl（対前週8.2%増）。

（単位：千KL）

	今週 (9/1 ~ 9/7)	前週 (8/25 ~ 8/31)	前週比	
ガソリン	884	850	▲ 34	(4%)
ジェット燃料	140	91	▲ 49	(54%)
灯油	64	66	▼ -2	(-3%)
軽油	609	621	▼ -12	(-2%)
A重油	213	172	▲ 41	(24%)
C重油	149	138	▲ 11	(8%)
合　計	2,059	1,938	▲ 121	(6%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

9月7日時点の在庫は、ジェット、A重油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェット、A重油、C重油が取り崩しになり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは165.8万kl、前週差10.7万kl増。前年に対しては10.2万kl多い。

灯油は238.1万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては2.3万kl多い。

軽油は169.9万kl、前週差1.9万kl増。前年に対しては11.9万kl多い。

A重油は70.8万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては0.1万kl少ない。

C重油は185.8万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては25.9万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (9/7)	前週 (8/31)	前週比	
ガソリン	1,658	1,551	▲ 107	(7%)
ジェット燃料	910	925	▼ -15	(-2%)
灯油	2,381	2,350	▲ 31	(1%)
軽油	1,699	1,680	▲ 19	(1%)
A重油	708	718	▼ -10	(-1%)
C重油	1,858	1,891	▼ -33	(-2%)
合　計	9,214	9,115	▲ 99	(1.1%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

9月3日～9日の原油価格は、前週比で値下がりしたが、為替レートは円安で相殺され、原油コストはほぼ横ばいになったものと見られる。

陸上スポット価格は、9月3日～9日の間、ガソリン109～110円台で値下がり、軽油58円台で値下がり、灯油58円台で値下がり後わずかに値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値下がり後ほぼ横ばい、軽油59円台で値下がり後ほぼ横ばい、灯油53～55円台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン104～106円台で値上がり、軽油59円台で値下がり、灯油54～57円台で値下がり後大きく値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

9月3日～9日の製品スポット市況は、8月27日～9月2日平均と比べ、取引によってばらつきが見られた。

直近の陸上スポット価格（9/3～9/9千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.8円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.4円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

9月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置き社0.5円の値上げとなった。

（RIM）　（単位：円/㌔㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(9/3 ~ 9/9)	前週　(8/27 ~ 9/2)	前週比
スポット価格	レギュラー	56.0	56.5	▼ -0.5
	灯油	58.2	58.2	➡ 0.0
	軽油	58.3	58.5	▼ -0.2

（TOCOM）　（単位：円/㌔㍑）

[期近物/終値 〔平均〕]		今週　(9/3 ~ 9/9)	前週　(8/27 ~ 9/2)	前週比
先物価格	レギュラー	51.7	51.3	▲ 0.4
	灯油	56.0	55.5	▲ 0.5
	軽油	59.3	59.6	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値　（9/3～9/9実績値）　（単位：円/㌔㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▲ 0.4	➡ 0.0
灯油	➡ 0.0	▲ 0.5	▲ 0.2
軽油	▼ -0.2	▼ -0.3	▼ -0.3
A重油	▼ -0.1		

（出所）現物：　RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：　TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

9月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の143.0円、軽油も同0.2円安の124.4円、灯油は18㍑ベースで同3円安の1,619円（1㌔㍑ベースでは同0.2円安の89.9円）。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油は6週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がり。都道府県別には、値上がりが7都県、横ばいが6県、値下がりが34道府県。全国最安値は宮城県の137.0円（前週比0.6円安）、その次は、滋賀県（同0.1円安）と埼玉県（同0.4円安）の137.1円、最高値は長崎県の154.2円（同0.2円安）。最も値上がりしたのは0.7円高の神奈川県（140.5円）、最も値下がりしたのは1.6円安の熊本県（145.1円）。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。今週は、原油価格はやや値下がりしたが、為替レートはやや円安で相殺され、原油コストはほぼ横ばいとなった。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。次週（9月17日）のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

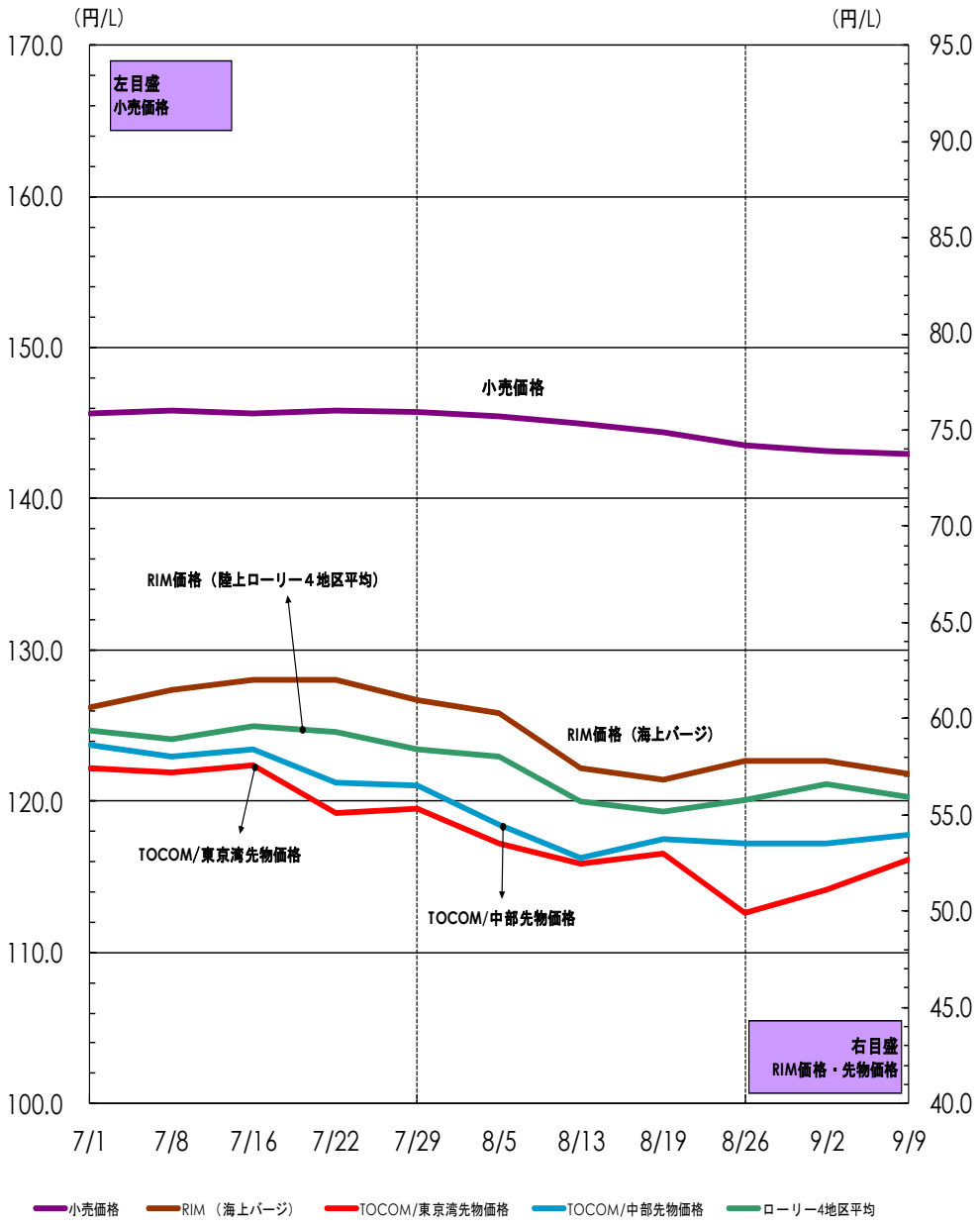
（単位：円/㌔㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(9/9)	前週　(9/2)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	143.0	143.2	▼ -0.2	08/8/4	185.1
	灯油	89.9	90.1	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	124.4	124.6	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/7/1　～　2019/9/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2019第23号）の公表は、9/20（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成31年3月末現在）は、7月31日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。